

令和 2 年度霧島錦江湾国立公園地域協議会 議事録

開催日時	令和 3 年 1 月 29 日(金)13 : 30~15 : 20
出席者	名簿参照
議 事	
13 : 30	開会
九州地方環境事務所 岡本所長	<p>オンライン会議参加の協力への感謝。</p> <p>2016 年 12 月のステップアッププログラム策定から 5 年が経過し、本年で最終年度となった。この間霧島錦江湾国立公園のインバウンドについては、推計 7 万 1 千人から 14 万 2 千人(2018 年)と約 2 倍に。</p> <p>一方でコロナの蔓延により、特に観光産業に大きな打撃を受けた。このような中、環境省としては満喫プロジェクトを 2025 年まで 5 年間延長することとした。コロナが収束するまでの間は当面国内観光客やマイクロツーリズムなどをターゲットにし、その間にアフターコロナに向けた取り組みの準備を進めていく方針としている。</p> <p>今回のポイントとしては、来訪者数を増やすだけでなく、滞在時間や宿泊者数、消費額といった体積を増やすことを目指す点がある。そのため早朝や夜間を含めたプログラムを充実させたい。</p> <p>また、2 次交通の代替手段とし e-bike や、湯布院の例を参考にした電気バス等の導入は、脱炭素、カーボンニュートラルの取組にもつながり、災害時の電源として活用ができるものである。</p> <p>今回から 2 つの第一地方銀行にメンバーに入ってもらった。地域経済界、特に地域の金融機関との連携が、こういった取組にとって大変重要である。参加に深謝したい。</p> <p>本日の協議会では、ステップアッププログラムが 2025 年まで継続されることについて議論していただく。地域振興と持続可能な地域づくりが共に図っていけるよう一生懸命取り組んでいきたいと考えているため、忌憚のない意見をお願いしたい。</p>
宮崎県環境森林部 川口泰夫次長	<p>当公園では、ステップアッププログラム 2020 に基づき、関係機関が連携しインバウンドの誘客を中心に、ソフト・ハード事業の計画的、集中的な取り組みが展開され、受入れ環境の整備が進められてきた。県では、国・関係市町と連携し、ビューポイントなどについて SUP やグランピングなどのアクティビティ開発、案内解説の多言語化、動画制作等のプロモーション、老朽化した歩道や休憩所、展望所の整備、アクセス道の改良などに取り組んできた。</p> <p>今回策定されるステップアッププログラム 2025 に基づき、これまでの成果や課題、新型コロナウイルスの対応を踏まえ、自然体験プログラムの造成や滞在環境の上質化、歩道や休憩所、給水施設の整備などに取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>本プログラムの関係者が一体となった国立公園の魅力の磨き上げや安心安全で快適な</p>

	受け入れ環境の整備充実により旅行者等の長期滞在や再訪が促進され、地域経済の回復が図れることを期待したい。
小林市 宮原 義久市長	オンライン会議の開催に感謝。 インバウンドに向けたツアープログラムの開発、夷守登山道に看板等を設置するなどの取組を行ってきたが、訪日外国人旅行者の減少は各方面においてコロナ禍による影響を受けているところである。この新型コロナが1日も早く収束することを願っている。 オンライン開催ではあるが、有意義な会となることを期待する。
えびの市 村 岡隆明市長	オンライン会議開催となり感謝。皆さんと顔を合わせて情報共有することが大事だと思っている。構成員の1人として、しっかりと役割を果たして有意義な意見交換の場にしていきたい。
高原町 高妻 経信町長	霧島山麓の町である高原町。公営の観光施設、これは霧島錦江湾国立公園内の一部に含まれている。現在のステップアッププログラムでは、国立公園整備事業を導入させてもらい、御池の整備に宮崎県の協力も得ながら、また林野庁等の理解も得ながら集中的に取り組み、より活用できる国立公園を目指している。 霧島山系の宮崎県側の登山口が高原町となるように今後登山道の事業整備なども進めていきたい。
垂水市 尾脇 雅弥市長	平成24年3月16日に霧島錦江湾国立公園として高峠つつじヶ丘公園山頂からの美しい眺望が指定された。公園内ではツツジ100種類10万本が自生している。平成31年にはツツジが縁で台北市との国際交流にも参加。アフターコロナに向けて多言語の看板やPVなどを作成して観光PR発信に努めたいと考えている。
霧島市 中重 真一市長	ちょうど本日、国立公園内の星野リゾートが開業した。オープンにあたり、許認可、高千穂河原地区滞在環境上質化計画等、環境省には感謝したい。今後もマイクロツーリズム、コロナ収束後のインバウンドを増やすためにも国立公園の内容の充実が必要だと考えているので、今後ご指導賜りたい。
南大隅町 森 田俊彦町長	リモートでもこのような会議が開催されることうれしく思う。 南大隅町は、雄川の滝、そして佐多岬を有しているが、さすがにこのコロナの関係でかなり来客数が激減している状況だ。しかしアフターコロナを見据えて手を打っていかねばならないと考えている。 また、国がグリーン社会・カーボンニュートラルといったことを考えているので、それに沿った追い風が吹くものと思い、また今後、インバウンドに向けて着実に手を打っていかうと考えているので、本日この会を非常に楽しみにしている。

13 : 45	議題 1 霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクトにおけるこれまでの取り組み及び成果について
事務局 吉澤 所長	資料 1 に基づき説明 (質問等なし)
13 : 50	議題 2 霧島錦江湾国立公園における国立公園満喫プロジェクトの継続について
事務局 吉澤 所長	資料 2-1,2-2 に基づき説明
えびの市 村 岡隆明市長	大きな成果も上がり、一方でコロナの影響も出ている中ではあるが、国や県、民間、地方自治体とタッグが組めてきているので、ぜひ満喫プロジェクトは継続していただきたい。
霧島市 中重 真一市長	えびの市長と同意。コロナ禍、あるいはコロナ収束後の観光を考えると、国立公園を充実させていくことは重要。今後も皆と連携して満喫プロジェクトに取り組んでいけたらと考えている。
宮崎銀行 地 方創生部 小 森園隆治部長	(新たに加わった構成員から挨拶) 霧島錦江湾国立公園満喫プロジェクトは、オフィシャルパートナーシップを結ぶ当行としても共同して地方創生に資する取組として重要と位置付けている。これからよろしくお願ひしたい。
鹿児島銀行地 域支援部 須 藤一裕部長	元来、地方銀行の使命として地方創生には取り組んでいて、今日参加のいくつかの自治体とは連携協定を結ばせていただいて地方創生に取り組んでいるところもある。このプロジェクトに新たに参加して少しでもお役に立てるようにがんばっていきたい。
14 : 05	議題 3 2021 年以降の取り組み方針について
事務局 吉澤 所長	資料 3-1、3-2、参考資料 2 に基づき説明
南大隅町 森 田俊彦町長	重点施策、重点的な取り組みのところでロングトレイルの設定があるが、どの程度の規模なのか。地域限定のトレイルなのか。 数年前に九州自然遊歩道を利用したロングトレイルを提案した経緯があるかと思う。このロングトレイルが非常に長い距離を有するのか、一部地域のトレイルなのか、教えてほしい。

<p>事務局 吉澤 所長</p>	<p>具体的に想定しているのは、霧島を5日間かけて歩く、鹿児島県観光連盟などが中心となって進められているロングトレイルである。ご指摘の超長距離のロングトレイルについては検討の余地もあろうかと思うので、具体的にどういったものがあり得るのかなどをご相談したい。</p>
<p>南大隅町 森 田俊彦町長</p>	<p>以前、福岡から佐多岬まで歩いた状況があったように記憶している。このように、各国立公園や観光地をつなぐということは欧米型のインバウンドには長期滞在も促すことになるのではないかと思います。自転車で周遊するブルーラインの設定も目標に掲げてみてはどうか。各地域を観光客がゆっくりと移動する設定ができるのではないだろうか。</p>
<p>事務局 吉澤 所長</p>	<p>大変魅力的な提案だと思う。 ステップアッププログラムの記載には、どこの地域と書かれているものではない。重点的施策の中で、「ロングトレイルの設定等」としていることから、南大隅町が提案したことも含むような表現になっている。</p>
<p>高原町 高妻 経信町長</p>	<p>成果と課題の説明でも示されたが、JRや飛行機等を利用して来られた観光客の二次交通に課題があるという声は聞いている。二次交通については今後も引き続き改善をお願いしたい。 冒頭のあいさつでも触れたが、御池の整備事業等では、林野庁から国有林の利用について理解をいただいている。御池の整備が進むにつれ民間事業者が参入するなどして、高原町としてもありがたい動きがある。満喫プロジェクトではこの保全林、国有林の利用を民間もぜひ、むしろ優先的に取り扱えるよう希望するものである。</p>
<p>14:40</p>	<p>議題4 その他</p>
<p>事務局 吉澤 所長</p> <p>九州観光推進 機構 渡邊太 志専務理事・事 業本部長</p> <p>事務局 吉澤 所長</p>	<p>資料4に基づき説明</p> <p>定額補助があるという説明があったが、金額のイメージはいくらぐらいか。</p> <p>滞在型ツアー関係では上限800万円、ワーケーションの推進に関しては上限250万円である。</p>

<p>垂水市 尾脇 雅弥市長</p>	<p>南大隅町長の自転車のブルーラインの話に関係して。常々、錦江湾や桜島は観光の魅力・宝だと感じている。先般、国交省の事業で、国道 220 号線 4.5 km を約 300 億円かけて整備する拡幅工事が始まった。その際に九州地方整備局の所長が、安全上だけではなく、観光の道路としてしっかりと駐車場など観光に資する整備が必要だという提言をいただいていた。議題 3 で述べるべきだったかもしれないが、広い意味でハード整備に便乗してそういう計画を組み込んでいただければ大変ありがたい。提言ということをお願いしたい。</p>
<p>九州地方環境 事務所 岡本 光之所長</p>	<p>闊達な意見交換に感謝する。</p> <p>自転車の活用やロングトレイルのこと、我々も重要なものだと考えている。特にロングトレイルについては、九州自然歩道の利活用では 1 つの過去の反省として、実際に歩いた後、公共交通機関でつなげていけるのか、宿泊場所は確保できるのかなど、また実際に歩いていくのが難しい場所もあることが分かっている。</p> <p>もし可能であれば、利用者が自家用車を使わないで行けるコースが、たとえ長距離になるコースであっても外国人観光客にとっては特に魅力的なものになっていくと感じる。そういった視点も含めて、意見交換をしながら、こういったモデルコースならできそうだ、というような議論も交わさせていただきたいと思っている。</p> <p>また、バスや鉄道などの地域交通が困難な実情にある地域が、これらを維持していく上で、観光客の方々に使っていただくことでそれを達成していくという視点もあるかと思う。実際に関東の日光線の利用者は外国人観光客が多く、彼らによって路線が維持されていることもある。簡単にいかないとはいえ、これも地域活性化に資するものではないだろうか。</p> <p>また、国交省と連携して自転車(ブルーライン)についても環境省として取り組んでいきたい。自治体からもぜひ声を挙げていただきたい。道路は道路として国交省の担当であるが、途中途中の魅力ポイント、展望台の整備など、そこに行ってみたくも思ってもらえるような魅力づくりは環境省の担当だと思っているので関係機関と具体的な良い連携ができればと思っている。</p> <p>定額補助の件について。鹿児島銀行や宮崎銀行は地元の団体と 2 次補正を使っていた例もあるので、参考までにお話しいただきたいが、いかがか。</p>
<p>宮崎銀行地方 創生部 小森 園隆治部長</p>	<p>えびの市と、10 月 12 月にトレッキング、レクリエーションを約 40 名集めて屋外でアクティビティを行ったことがある。えびの市にあるアウトドアステーションえびので開催、えびの岳のトレッキング、キッズバイクなど子供向けのレクリエーション、e-bike で市内を走るトライアル等を実施した。</p> <p>えびの高原のキャンプ広場では親子約 10 組がキッズバイクを満喫し、えびの岳トレッキングでは参加者が 3 時間のトレッキングで雄大な自然を楽しんだ。</p>
<p>鹿児島銀行地</p>	<p>霧島市観光協会と、国立公園オフィシャルパートナー企業のヤママップと共同で、高千</p>

<p>域支援部 須藤一裕部長</p>	<p>穂峰、霧島神宮、えびの高原を一体として周遊可能な e-bike とトレッキングを組み合わせたプログラムを申請。プロモーション展開、モデルプランの実践という実績がある。</p>
<p>南大隅町 森田俊彦町長</p>	<p>(全体質疑・意見) アフターコロナを見据えたインバウンド誘客について。 外国人観光客のマナー(違反)により、ゴミの清掃、管内の草木の問題、これらを管理する問題がどこもついて回ると思う。これらの費用は各自自治体の負担となっているが、なんとか収益性を見つけられないかと思案しているところだ。これらについて、今後の展開の中で環境省として何か方法や知恵があればぜひ教えていただきたい。</p>
<p>事務局 吉澤所長</p>	<p>収益化する方法について今すぐいい知恵が出ないというのが率直なところ。 ゴミ清掃に関しては環境省の事業で、一部の公園内、特に海辺のゴミを拾うなどは行っている。個人の見解にはなるが、マナーの周知がより重要になってくるのではないかと思う。マナーの周知についてはこれまでも行ってきたことであり、多言語での周知もなされてきているので、これからもそれを続けていくことが 1 つできることではないかと考える。十分な答えとなっていないが、いかがか。</p>
<p>南大隅町 森田俊彦町長</p>	<p>すぐに答えが出る話ではないと感じている。また、お国柄という問題もあるのではないかと考える。国立公園内はほぼ毎日、職員を当てて清掃を行っている状況だ。その人件費のことも考えると、今後非常に重要な話題になってくるだろう。緩和措置のようなものも含めて検討いただければと思う。</p>
<p>九州農政局 馬場範雪地方参事官</p>	<p>当局として、地域を紹介するような HP を立ち上げたり体験プログラムを提供したりして農泊の事業の取り組みを行っている。 国立公園内に隣接している地域では、霧島市清水地域、垂水市でこれらの事業を活用している地域もある。この満喫プロジェクトとも密接にかかわっていくことになると思うので、そういった各地に点在する農泊が可能な地域とも連携して、地域の発展に繋げていきたい。</p>
<p>九州森林管理局 峰内浩昭 保全課長</p>	<p>国有林内の国立公園にかかる取り組みでは、引き続き各市町村からの要望等を聞きながら協力できることは全面的に協力するという思いで取り組んでいる。 また、今後は国立公園に関わらず、各市町村の行事等の関係で国有林への要望があれば出先機関の森林管理署を通して声を聞かせていただきながら共に進んでいけると考えている。</p>
<p>九州地方整備局 満崎晴也</p>	<p>(九州地方整備局) ※接続の不具合で音声通信できず</p>

<p>企画部事業調整官</p>	<p>九州運輸局 甲斐秀保観光部計画調整官</p> <p>コロナ禍により、今後観光事情が回復するのに時間を要するとは思いますが、観光客の行動様式が徐々に変化するという事は予想されている。国内外の観光客は集団行動を避けて少人数となったり、対面型サービスを避けて非接触型のサービスを選択したりすることになるだろう。</p> <p>そういう意味では、国立公園はウィズコロナ、アフターコロナの時代にフィットした環境であると感じている。当分の間はプロモーションに重点を置くということではなく、今この時期に国立公園の自然を生かした新たなコンテンツの発掘や、今あるコンテンツの磨き上げを行って、状況が収束した後、多くの観光客に訪れてもらうように交通アクセスを含めた環境整備を行う絶好の機会だと思っている。</p> <p>関係機関と観光需要を回復するために共に取り組んでいきたい。</p>
<p>九州観光推進機構 渡邊太志専務理事・事業本部長</p>	<p>2005年から国内外のプロモーションに取り組んできたが、特にインバウンドでは九州には3つの課題がある。</p> <p>1つは、来訪者の国・地域に偏りがあること。九州への来訪者の95%が東アジアから来ており、裏返すと欧米豪からの来訪者が少ないことを指している。</p> <p>2つ目は、旅行者の消費額が少ないこと。全国のインバウンドの個人消費単価が15万8千円に対して、九州は9万円程度である。</p> <p>3つ目が、九州の知名度やブランドイメージが乏しいこと。欧米豪では九州のことを知らない人のほうが圧倒的に多く、北海道や沖縄と比べても認知で劣っているのが事実である。</p> <p>九州運輸局からもあった通り、ウィズコロナ、アフターコロナでは、旅の志向の変化というものが必ず出てくる。都会志向から自然安全志向に変化していくので、九州にとってはチャンス到来と考えてよいのではないかと。自然素材を磨き上げ、健康という観点で温泉等をどうPRするかである。</p> <p>当機構では昨年の4月から欧米豪プロモーションセンターを立ち上げ、昨年の10月からはニューヨークに拠点を設けている。本物志向が多い欧米豪の人々に九州をPRするには、他の地域と差別化が図りにくい食や温泉だけではなく国立公園や自然遺産を有する霧島錦江湾エリアは重要なエリアだと思っている。</p> <p>国立公園満喫プロジェクト2025には大きな期待を抱くとともに、プロモーション、マーケティング、コンテンツ開発では皆さんと協力ができると感じている。</p>
<p>宮崎県観光協会観光推進局 国内誘致部 松田孝則部長</p>	<p>これからの観光では、自然を体験することが重要なコンテンツの1つになってきそうだと。特に宮崎県単県ではなく、鹿児島県と連携してそれぞれのエリアが持つ魅力を点ではなく面として発信していくのが大事ではないかと思う。引き続き関係機関と協力しながら、ステップアッププログラムに基づきながらプロモーションを展開し</p>

<p>鹿児島県観光連盟 倉野満専務理事</p>	<p>たいと考えている。</p> <p>事務局の説明にもあったロングトレイルは、満喫プロジェクトに関わるというよりは、県観光連盟で数年前から魅力ある観光コンテンツを育て上げる、海外からの観光客の要望にも応えうる壮大なコンテンツを作る目的で取り組んできたものである。歩くという観光素材は、滞在時間を増やす、リピーターを増やす、小さなところにも目を向けてもらえる利点がある。歩くカテゴリーの中で頂点に近い「長い距離を歩く」ことは海外の方にも好まれることから、これを育て上げたらどうかということで霧島えびの地区に目を付けた。ここは温泉も自然も火山も神話も素材が揃っているので、専門家の意見も聞きながら育ててきたところだ。</p> <p>まだ完成ではないが、関係機関の協力をもらってモデルルートを提案し、一般市民向けの散策イベントやメディア向けのファムトリップも実施し、徐々に形が整ってきた印象だ。今後は宮崎県や民間企業、各自治体らの力が必要で、推進母体をどうするか、ホテル等はどうするのか課題はあるが、皆の協力で解決していきたい。</p> <p>また南大隅町からもあったように、もっと壮大な九州を縦横に行けるようなトレイルコースを、各地の取り組みを組み合わせながらやっていければと思っている。桜島や指宿のほうとも色々な施策を打ってがんばっていきたい。</p>
<p>14 : 55</p>	<p>閉会</p>
<p>鹿児島県環境林務部 松下正部長</p>	<p>霧島錦江湾国立公園では、参集の自治体が一丸となってプロモーションや利用環境整備等に取り組んできた。本日の会議では、2021年度以降はこれまでの取り組みに加えて、コロナ収束後の地域の在り方や二次交通そしてロングトレイルの活用方策、体験プログラムの充実、そして銀行との連携など新たな展開を図るといった方向が議論された。それぞれの立場で引き続きブラッシュアップが図られることをお願いしたい。</p> <p>本プロジェクトを通してより多くの方々が霧島錦江湾国立公園を訪れ、その魅力を満喫し、宮崎鹿児島両県の豊かな自然の魅力を磨き上げることで地域の活性化をさらに推し進めたいという期待と決意を述べたい。</p> <p>新型コロナが1日も早く収束して普段の生活が戻るよう、そして観光客がV字回復すること、参集の皆さんと直接お会いできることを切に願うものである。</p>